2009年11月：JaCVAM活動マンスリーレポート

NO.	項　　目	記　　載　　内　　容
新　聞		
1	発表者名もしくは掲載者名	動物実験代替法研究・評価センター（JaCVAM）
	記事名	動物実験代替法開発へ
	掲載紙及び掲載日時　※	化学工業日報および平成21年11月13日
	掲載内容（150字以内）	国内動物実験代替法研究・評価センター「JaCVAM」は11日、顧問会議を国立医薬品食品衛生研究所講堂で開催した。米国評価機関「ICCVAM」のウィリアム・ストークス氏が毒性試験法の動向について紹介した。
NO.	項　　目	記　　載　　内　　容
国際学会		
1	発表者名	Hajime Kojima
	演題名 （和訳を括弧書きで記載）	Organization of JaCVAM and its activity （動物実験代替法検証センターの組織とその活動）
	学会名，発表年月及び場所	KoCVAM International Symposium and 6th Congress of KSAAE, November 3rd, 2009,　Seoul (Korea)
	学会名，発表年月及び場所の和訳	韓国動物実験代替法検証センター国際シンポジウムおよび韓国動物実験代替法学会第6回大会、平成21年11月3日、ソウル（韓
2	発表者名	Hajime Kojima
	演題名 （和訳を括弧書きで記載）	Utilization of an alternative to animal testing for safety evaluation of cosmetic ingredients using Quasi-drug （医薬部外品
	学会名，発表年月及び場所	The 17th ICDS (International Contact Dermatitis Symposium) and the 10th APEODS (Asia-Pacific Environmental and
	学会名，発表年月及び場所の和訳	第17回国際接触皮膚炎シンポジウムおよび第10回アジア太平洋環境および職業性皮膚炎シンポジウム、平成21年11月5-8日、京
3	発表者名	Hajime Kojima
	演題名 （和訳を括弧書きで記載）	Japanese approach to regulatory acceptance of new skin sensitization testings with due considerations to animal welfare
	学会名，発表年月及び場所	The 17th ICDS (International Contact Dermatitis Symposium)
	学会名，発表年月及び場所の和訳	第17回国際接触皮膚炎シンポジウムおよび第10回アジア太平洋環境および職業性皮膚炎シンポジウム、平成21年11月5-8日、京
国内学会		
4	発表者名	小島　肇、安藤洋子[1]、山口能宏[2]、小坂忠司[3]、鈴木民恵[4]、湯浅敦子[5]、渡邉幸彦[6]、篠田伸介[7]、出原賢治[8]、吉村　功[9]、宮岡悦良[9]、石山賢也[9]、加藤雅一[10]、大森崇[11]
	他機関所属	1：愛研、2：小林製薬、3：残留農薬研究所、4：ファンケル、5：富士フィルム、6：丸石製薬、7：薬物安全性試験センタ、8：ダイセル化学工業、9：東京理科大、10：J-TEC、11：京都大学

	演題名 （和訳を括弧書きで記載）	培養皮膚モデルLabCyte EPI-MODEL24を用いた皮膚刺激性試験代替法のバリデーション研究
	学会名，発表年月及び場所	第22回日本動物実験代替法学会総会・学術大会、平成21年11月13日～15日、大阪大学
	学会名，発表年月及び場所の和訳	
5	発表者名	小島　肇、飯島正文[1]、松永佳世子[2]、佐々　斉[3]、板垣　宏[3]、岡本裕子[4]、西山直宏[5]、小野寺博志[6]、見田　活[6]、鷲田　淳[7]、益山光一[7]、増田光輝、大野泰雄
	他機関所属	1：昭和大学、2：藤田保健衛生大学、3：株式会社　資生堂、4：コーセー株式会社、5：花王株式会社、6：(独)医薬品医療機器総合機構、7：厚生労働省
	演題名 （和訳を括弧書きで記載）	医薬部外品の承認申請における安全性に関わる資料のあり方検討委員会報告
	学会名，発表年月及び場所	第22回日本動物実験代替法学会総会・学術大会、平成21年11月13日～15日、大阪大学
	学会名，発表年月及び場所の和訳	
6	発表者名	小島　肇、井上　達、増田光輝、秋田正治[1]、大野泰雄
	他機関所属	1：鎌倉女子大
	演題名 （和訳を括弧書きで記載）	動物実験代替法公定化のためのJaCVAM提案書
	学会名，発表年月及び場所	第22回日本動物実験代替法学会総会・学術大会、平成21年11月13日～15日、大阪大学
	学会名，発表年月及び場所の和訳	
7	発表者名	小野　敦、武吉正博[1]、Susanne　Bremer[2]、Miriam Jacob[3]、Susan C. Laws[4]、寒水孝司[5]、小島　肇
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	1：化評研、2：ECVAM、3：EFSA、4：US-EPA、5：大阪大学
	演題名 （和訳を括弧書きで記載）	HeLa9903細胞を用いたエストロゲン受容体転写活性化試験によるアンタゴニスト検出法の国際バリデーション
	学会名，発表年月及び場所	第22回日本動物実験代替法学会総会・学術大会、平成21年11月13日～15日、大阪大学
	学会名，発表年月及び場所の和訳	
8	発表者名	本間正充、山影康次[1]、Burlinson, B.[2]、Escobar, P.[3]、Pant, K.[4]、Kraynak, A.[5]、林　真[6]、中嶋圓[6]、鈴木雅也[6]、Corvi, R.[7]、宇野芳文[8]、Schechtman, L.[9]、Tice, R.[10]、小島　肇
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	1：食薬センター秦野研究所、2：Huntingdon Life Science、3：Boehringer-Ingelheim、4：Bio-Reliance、5：Merck、6：安評センター、7：ECVAM、8：田辺三菱製薬、9：Innovative　Toxicology Consulting、10：NIEHS/ICCVAM/NICEATM
	演題名 （和訳を括弧書きで記載）	In vitroアルカリコメットアッセイ国際バリデーション研究
	学会名，発表年月及び場所	第22回日本動物実験代替法学会総会・学術大会、平成21年11月13日～15日、大阪大学

	学会名，発表年月及び場所の和訳	
9	発表者名	小島　肇、笠松俊夫[1]
	他機関所属	1：花王株式会社
	演題名 （和訳を括弧書きで記載）	IWGT報告　トピックス3：予測性の高いin vitro試験の提案
	学会名，発表年月及び場所	日本環境変異原学会第38回大会、平成21年11月26日～27日、清水テルサ（静岡）
	学会名，発表年月及び場所の和訳	
10	発表者名	中嶋圓[1]、小島　肇、宇野芳文[2]、本間正充、林　真[1]
	他機関所属る	1：安評センター、2：田辺三菱製薬
	演題名 （和訳を括弧書きで記載）	コメットアッセイの国際バリデーション
	学会名，発表年月及び場所	日本環境変異原学会第38回大会、平成21年11月26日～27日、清水テルサ（静岡）
	学会名，発表年月及び場所の和訳	
11	発表者名	小島　肇、北條麻紀、新井晶子[1]
	他機関所属	1：食薬センター　秦野研究所
	演題名 （和訳を括弧書きで記載）	3次元培養表皮モデルを用いるコメットアッセイと細胞毒性の関係
	学会名，発表年月及び場所	日本環境変異原学会第38回大会、平成21年11月26日～27日、清水テルサ（静岡）
	学会名，発表年月及び場所の和訳	
12	発表者名	JaCVAM：コメットアッセイ国際バリデーションプロジェクトチーム
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	
	演題名 （和訳を括弧書きで記載）	インビボコメットアッセイ：JaCVAM国際バリデーション試験の進捗状況報告
	学会名，発表年月及び場所	日本環境変異原学会第38回大会、平成21年11月26日～27日、清水テルサ（静岡）
	学会名，発表年月及び場所の和訳	

レギュラトリーサイエンス関連会議報告		
NO.	項　　目	記　　載　　内　　容
1	参加者名	小島　肇、小野　敦
	会議名（英文の場合は和訳も記載）	OECD EDTA　VMG-NA（内分泌かく乱物質試験法　バリデーション運営グループ－非実験動物）第7回会議
	開催場所，年月	ワシントンD.C.、平成21年11月17日～19日
	会議内容（150字以内）	OECDでテストガイドラインとしての検討が進んでいる哺乳動物を用いない内分泌かく乱物質試験法について、その詳細な内容を各国の専門家と議論した。

誌上発表		
和文総説		
NO.	項　　目	記　載　内　容
1	著者名	小島　肇
	総説題名	現在の動物実験代替法の状況について
	雑誌名、巻（号）、ページ、年	LABIO21、38（OCT）、17-20、2009
	掲載内容（150字以内）	世界的な規模で、動物福祉および動物実験の3Rs（Reduction、RefinementおよびReplacement）推進が叫ばれている。しかし、Replacementを意味する動物実験代替法の普及はほとんど進んでいない。Replacementはともかく、少しずつReduction、Refinementの方向に向かって行っていることは間違いない。